

巻 頭 言

第 54 回日本呼吸器学会学術講演会開催にあたり

The Holding Greeting for The 54th Annual Meeting of Japanese Respiratory Society

会長挨拶 河野 修興

President: Nobuoki Kohno

年頭にあたり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。本年 4 月 25 日（金）から 27 日（日）の 3 日間、大阪国際会議場およびリーガロイヤルホテルにおいて第 54 回日本呼吸器学会学術講演会を開催いたします。会員皆様多数のご参加をいただきますようお願い申し上げます。

わが国における呼吸器学の歴史を振り返りますと、結核が国民病と呼ばれ、戦後約 20 年を経るまでは大多数の医師にとって結核診療に長じていることは責務でした。多数の結核療養所が設置されたゆえんです。したがって、結核すなわち呼吸器の診療を専門とする医師数はあらゆる診療領域の中で最も多いものでした。そんな時、昭和 40 年代半ばから医師不足を背景として都道府県に最低でも 1 校は医学部医学科を設けることが決まりました。いわゆる新設医大です。この際、当時は結核療養所に呼吸器を専門とする医師が非常に多かったためでしょうか、新設医大の大半には呼吸器内科の教授を有する教室が設置されませんでした。

そのような状況から 40 年以上経った現在、呼吸器専門医の数はあまりにも少なくなりました。呼吸器内科の大学教授がいる県に比べて、教授の不在県では呼吸器疾患死が多いということが報告されています。厚生労働白書によると、外来および入院のいずれにおいても専門医が診るべき内科領域の患者としては呼吸器領域が最多になっています。肺炎による死亡者数は第 3 位と増え、全癌死中では肺癌死が第 1 位となくなりました。今後は COPD による死亡者数も顕著に増加することが予測されています。また、分

子標的治療薬や生物学的製剤などと呼ばれる強力な作用を有する薬剤の普及により薬剤性間質性肺炎の患者さんが急増しています。したがって、呼吸器専門医を養成する日本呼吸器学会の責務は非常に重いものであると考えています。

学術研究は独創的、創造的であるべきです。そこで、学術集会のテーマは、「和魂和才の時代を拓く」、英文では、“Pursuing Creative Research in Respiriology”としました。和英意味はまったく異なっていると思われるでしょうが、その精神は共通です。「故きを温ね、国際化の時代を個性と独創性をもって世界の呼吸器病学に貢献する日本の呼吸器学会であろう」というものです。ちなみに、「和魂和才」とは「和魂漢才」、「和魂洋才」を脱却し、「和のなせる業」をもって世界を構成するにふさわしい一員であろうという意味です。

学術集会には二つの意味があります。一つは、新規な研究の発展に寄与することであり、これがなければ科学とはいえません。もう一つは、専門医から若手の医師までに共通な医療技術を追求するものです。この二つは、向きをまったく異にするものであり、前者は独創性・個性を追求するもの、後者は共通性・普遍性を検討するものです。前者は研究、後者は訓練と呼び換えてもよいかもしれません。したがって、今回、会長企画ではこの二つを意識的に分離するように心がけました。

基調講演は、わが国に発する独創的科学的成果である NKT 細胞を発見された谷口 克先生にお願いしました。その他、海外からの招請講演 4 題、特別講演 3 題、international symposium 4 題、シンポジウム 13 題、関連学会との共同企画 7 題、教育プログラム 13 題をプログラム委員会に選定いただきました。

一方、医師の教育を目的とする会長特別企画として、「若手医師に役立つ実践講座 ①胸部画像から核心に近づく、②呼吸管理のスタンダードから」を用意しました。いずれも、最大収容人数の第一会場において合計3時間40分にわたり10名以上の高名な先生に担当していただく予定です。現在、最先端病院で活躍しておられるエキスパートのご講演を一举に拝聴できる、明日からの診療に有益な企画です。楽しみにしてください。

公募演題には、ポスター発表・ミニシンポジウムと英語による English poster discussion があります。また、今回から学術部会賞という名誉ある賞を選ぶ企画が始まりますので、たいへん期待しています。

一般市民と日本呼吸器学会会員を対象とする公開講座としては2演題を予定しています。お一人は、バイオの研究者から日本刀の刀匠に転向された現代刀工第一人者である久保善博師（備後国住）、もうお一人は、和漢薬分野で第一人者の元富山医科薬科大学医学部長

寺澤捷年先生です。いずれのご講演も、テーマである「和魂和才の時代を拓く」にふさわしいものですので、多数の参加を期待しています。

今回、日本語による発表であっても、発表演題名と発表者のお名前・ご所属を日本語と英語の併記でお願いしています。わが日本呼吸器学会学術講演会には外国から100名前後の先生が参加しておられ、この先生たちに、私たち日本の医師たちがいかなる発表をしているのか、タイトルや発表者名を理解していただきやすくなるためです。ポスターセッションの発表者の皆様方には、研究目的や結語・総括などもできるだけ英文でお示しいただければ幸いです。

最後になりましたが、小生、広島で働いていますので、広島を代表する「厳島神社」と和の神髄である「鯉のぼり」をイメージしたポスターを作製しました。早合点して、広島に来られる方がいないか心配しています。会場は大阪ですのでくれぐれもよろしく願いいたします。